

敬老の日を前に厚労省は9月1日、100歳以上となる高齢者が9月15日時点で、6万1568人（前年比2748人増）に上ると発表した。

6万人を超えるのは初めてで、女性が87%を占める。今年度中にちょうど100歳を迎える高齢者は3万379人（前年度比1022人）で、初めて3万人を突破する。

100歳以上の人は、老人福祉法が制定され、国による表彰が始まった1963年は153人だったが、1998年に1万人を突破し今年45年連続で過去最多を更新した。

厚労省高齢者支援課は「医療が進歩し、高齢者の健康も高まったことが要因として考えられる」と分析している。

人口10万人占める100歳以上の人数は全国平均で48.45人。都道府県別では、島根県（90.67人）が3年連続で最多となり、最も少ないのが26年連続で埼玉県（28.68人）だった。

国内最高齢者は、東京都渋谷区在住の115歳の女性だ。男性の最高齢者は、名古屋市の112歳である。

（2015/09/11 読売新聞から）